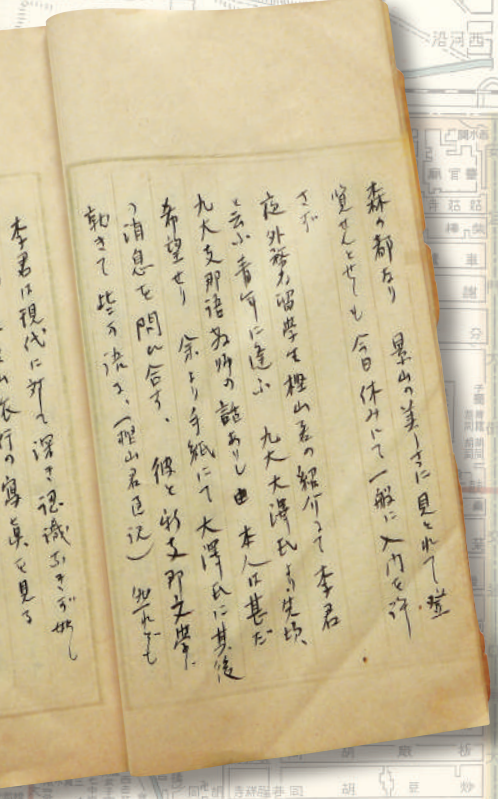
九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[058_2019]第58回附属図書館貴重文物展示 : 一九三〇年代の九大アジア研究と北京

静永, 健
九州大学大学院人文科学研究院 : 教授

https://doi.org/10.15017/2543263

出版情報：展観資料, 2019-11-07. Kyushu University Library
バージョン：
権利関係：



中央図書館開館一周年記念
第58回 九州大学附属図書館貴重文物展示

一九三〇年代の九大アジア研究と北京

2019年
11月7日(木)～11月16日(土)

開場時間　10時～18時
会　　場　九州大学中央図書館
（福岡市西区元岡744）

主　　催　九州大学附属図書館
特別協力　大野城心のふるさと館

九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学附属図書館
Kyushu University Library

展示会開催にあたって

九州大学附属図書館長　宮本 一夫

一昨年、中央図書館所蔵の濱文庫から、現代中国の国民的詩人である謝冰心の詩集『春水』の手稿が発見されました。1939（昭和14）年に魯迅の弟であった周作人から濱一衛（九州大学名誉教授）に送られたものでした。近年発見された九州大学文学部中国文学研究室初代教授の目加田誠が記した北京留学時の『北平日記』には、奇しくも濱一衛や周作人との北京での交友が記されています。

1933（昭和８）年から1935（昭和10）年にかけて北京に留学した目加田誠は、この間、『詩経』を初めとした中国文学全般の研究とともに貴重な中国書籍の購入を行い、中央図書館の中国文学蔵書の礎を作り上げています。『北平日記』も2012（平成24）年に偶然発見されることとなり、静永健教授を初めとする文学部中国文学研究室によって、翻字と膨大な注釈を附して『目加田誠「北平日記」―1930年代北京の学術交流―』（中国書店）が今年出版されたばかりです。目加田誠による同時代の若き中国文学研究者であった小川環樹、濱一衛、周作人などとの交友関係を探るとともに、日中戦争直前の北京という現代史を振り返りたく思います。また、収集された貴重な中国書籍を展示し、目加田誠の学問的な業績を振り返ることにしたく、展示会を開催することに致しました。

中央図書館が伊都キャンパスに開館して初めての記念すべき今回の展示会にあたりまして、静永教授ならびに文学部中国文学研究室の方々に多大な協力を頂きました。厚くお礼申し上げます。

令和元年11月７日

九州帝国大学附属図書館（1925年）

附属図書館閲覧室（1928年）

九州大学名誉教授 目加田誠について

九州帝国大学法文学部に着任し、戦後の九州大学でも文学部長を二期つとめられた目加田誠（めかだまこと、1904～1994）をご存知だろうか。

文学部中国文学講座の初代教授で、日本の近代学界においても日本中国学会や東方学会など中国学の重要な全国学会の創設に携わった方である。著書も多数あるが、中でも古代中国の『詩経』研究では、伝統的な訓読による解釈のみに依拠せず、一般の人々にもわかりやすい「うた（民謡）」のスタイルで翻訳を示すという画期的な試みを行い、今もなお多くの愛読者をもつ。文字通り文学研究のパイオニアの一人である。晩年には元号「平成」制定時に、その最終候補案の一つを提出したことでも有名。

目加田教授の九大着任は1933（昭和８）年のことであるが、彼は着任早々の同年10月より約１年半の間、日本政府の特別事業（東方文化事業）のためにはるばる中国の北京（その当時は北平と改称していた）に派遣されることとなった。近年、その時の詳細な記録『北平日記』が、その蔵書群（現在は一括して大野城心のふるさと館に所蔵）の中から発見された。

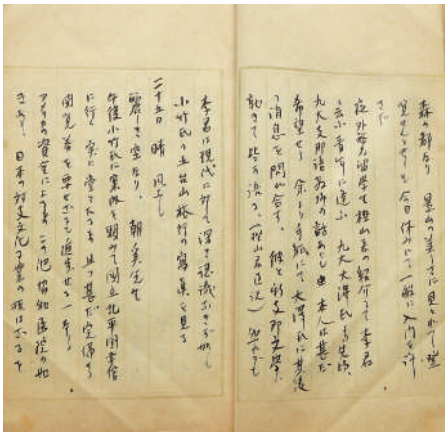
30歳誕生日の目加田誠（目加田家所蔵のアルバムより）

目加田誠『北平日記』について

『北平日記』は目加田教授自筆の全８冊の記録である。1930年代の北京の雑貨店で購入された糸綴じの雑記帳に記されている。1933（昭和８）年10月の神戸出航直前から始まり、1935（昭和10）年３月に北京を離れるまでのほぼ毎日の出来事（面会者や買い物、そして読書の記録など）が克明に記されている。

九大図書館には、中国明清時代の貴重な漢籍が豊富に蔵されているのだが、実はこの目加田教授の北京滞在中に入手したもの、およびその際に北京で面識を得た古書店から後日購入されたものが数多くを占める。その実際の様子は従来あまり知られていなかったが、この『北平日記』の発見によって、その当時の北京における交流（日本人留学生×古書店主×北京在住の学者や文化人）が明らかとなった。

目加田誠『北平日記』全８冊（大野城心のふるさと館蔵）


『北平日記』第１冊（第８丁裏、第９丁表）

北平から九大図書館への古書納入経路

『北平日記』1934（昭和９）年５月29日に目加田教授が九大に数冊の古書を送った記事が見える。その中の一冊『両漢三国学案』には、現在も「寄／徳友堂」との記載のある小紙片が残っている。目加田教授の指示で、北京の古書店徳友堂が日本に郵送したことが裏付けられた訳である。一方、九大図書館の受け入れ帳簿には福岡の積文館書店が納品したとある。外国書の納入には、日本円への換算のほか郵送費も発生する。現在は専門業者が行っているこれらの煩瑣な作業を、当時は地元書店が請け負っていたことがわかる。

さて、北京の古書店の業務は、ただ単に書籍を売って日本に届けるだけではない。破れた箇所を修復したり、綴じ糸を新しくしたり、そして「帙（ちつ）」と呼ばれるブックカバーを作ったり……、実にさまざまなサービスを行っていたことが『北平日記』から読み取れる。ちなみに「帙」は日本の古書店でも作ることができる。しかし、この戦前の北京作成のものは、日本製のものとは材質や作り方に違いがあり、これを手掛かりに九大図書館内の中国学の書棚を探索すると、同種のものが相当数存在する。

唐晏『両漢三国学案』（九州大学附属図書館蔵）

『両漢三国学案』に残る「寄／徳友堂」小片

九州大学中央図書館書庫の様子

1930年代北京に留学した九大教員たち

戦前の北京に留学したのは目加田教授だけではない。当時「中国学（思想・歴史・文学）」を志していた東京や関西の若い研究者も多数往来し、大学の垣根を超えた大きな学術交流の場が生まれていたようである。実は九大文学部中国哲学史講座の初代教授楠本正継（くすもと・まさつぐ、1896～1963）や、戦後同講座の後任に就く山室三良（やまむろ・さぶろう、1905～1996）、また六本松キャンパス教養部に在籍した濱一衛（はま・かずえ、1909～1984）なども、目加田教授に前後して、この北京に学んだ「仲間」でもある。

九大図書館の貴重コレクションの一つ「濱文庫」には、北京留学時代の濱教授が目加田教授と連れだって通った京劇の「戯単」（その日の上演パンフレット）が残っている。

ちなみにその後、楠本教授は九大附属図書館の第十一代館長、濱教授は六本松分館の第五代分館長となる。

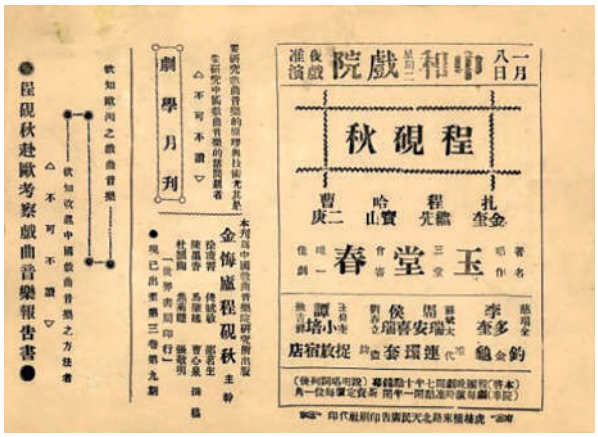
北京の東方文化事業庭園内にて
（目加田家所蔵のアルバムより）
左から秋山達三、岡田武彦、楠本正継、
目加田誠、久須本文雄

北海でのスケート（目加田家所蔵のアルバムより）
左から周豊一、目加田誠、濱一衛、小川環樹

周作人宅の門前にて（目加田家所蔵のアルバムより）
左から濱一衛、目加田誠、八木香一郎、小川環樹

昭和９年９月23日中秋節、東方文化事業での月見の宴（目加田家所蔵のアルバムより）中段左から４人目が目加田教授

1934年11月26日夜　北京・哈爾飛戲院　戲単
（九州大学附属図書館蔵）

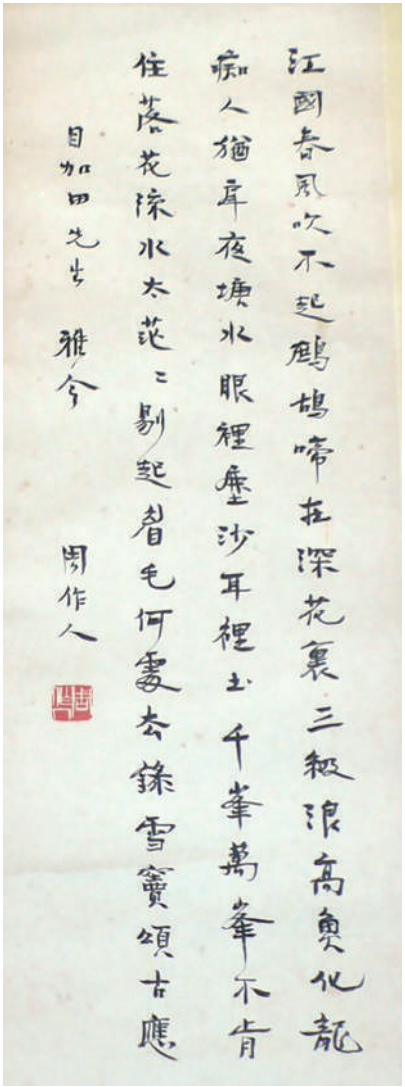


1935年１月８日夜　北京・中和戲院　戲単
（九州大学附属図書館蔵）

程硯秋のプロマイド写真
（目加田教授の遺品より）

兪平伯と銭稲孫（1935年２月）

江国春風吹不起鷓鴣啼在深花裏三級浪高魚化龍
痴人猶戽夜塘水眼裡塵沙耳裡土千峯萬峯不肯
住落花流水太茫茫剔起眉毛何處去録雪竇頌古応
目加田先生雅令　周作人



周作人書軸（大野城心のふるさと館蔵）

目加田教授と中国の著名文化人たち

1930年代という時代背景（つまり日中戦争前夜）にも関わらず、留学中の目加田教授たちは、現地の文化人（大学教授、作家など）と頻繁に交流している。これは『北平日記』発見によって漸く明らかになった事実である。例えば、近代中国に白話文学運動をもたらした思想家の胡適（1891～1962）、古典小説研究の孫楷第（1898～1986）、『紅楼夢』や填詞研究の開拓者兪平伯（1900～1990）、そしてあの魯迅（1881～1936）、周作人（1885～1967）の兄弟それぞれに会ったことも見逃せない。

中でも、当時北京大学で日本文学を研究していた銭稲孫（1887～1966）との交流は親密で、目加田教授はその留学後半の四ヶ月間を銭氏宅に部屋を借りて滞在することになる。その銭稲孫氏の遺業（偉業）の一つが、中国で最初の『万葉集』翻訳である。目加田教授の『詩経』訳と見比べて欲しい。

目加田訳詩経

静女其姝	可愛いいあの子の器量よし
俟我於城隅	私を待ってる城の隅
愛而不見	あたりほのかに姿は見えず
搔首踟躕	頸をかきかきじれったさ
静女其孌	可愛いいあの子の器量よし
貽我彤管	私にくれた彤（あか）い管（くだ）
彤管有煒	彤いその管あかい色
説懌女美	ほんに嬉しい美しさ
自牧帰荑	野から荑（つばな）を私にくれた
洵美且異	ほんにきれいでめずらしい
匪女之為美	つばながきれいというではないが
美人之貽	きれいな人のおくりもの

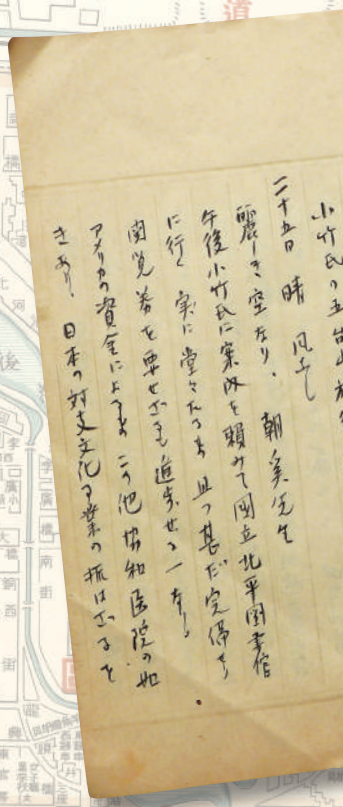
（詩経・邶風・静女／『目加田誠著作集第二巻・定本詩経訳注（上）』p111）

銭稲孫訳万葉集

籠もよ　み籠もち	有女陟岡
ふくしもよ　みぶくし持ち	携圭及筐
この丘に　菜摘ます児	以彼圭筐
家聞かな	采菜未遑
名告らさね	之子焉居
そらみつ	我欲得詳
やまとの国は	曷示我氏
おしなべて	毋使我彷徨
吾こそをれ	天監茲大和
しきなべて	悉我宅京
吾こそませ	無或不秉我承
我こそは告らめ	維以我為兄
家をも名をも	亦昭我氏名

（万葉集巻一・雄略天皇御製／銭稲孫『日本詩歌選』、1941年、出版＝東京文求堂、著作権者＝北京近代科学図書館館長・山室三良）

風字硯と書簡（九州大学中国文学研究室蔵）
1936年目加田教授が北京で購入し、楠本教授に贈ったもの。明時代の端渓の名硯であることを銭稲孫が鑑定



● 講演会 ●

一九三〇年代の九大アジア研究と北京
新発見の目加田誠『北平日記』を読み解く

講演者：静永 健 氏（九州大学人文科学研究院 教授）

日　時：2019年11月9日（土） 14時～15時30分（開場13時30分）

会　場：九州大学中央図書館4階 きゅうとコモンズ

● 参考文献 ●

橋川時雄編. 中国文化界人物総鑑. 覆刻版, 名著普及会, 1982.（中華法令編印館1940年刊の複製）

目加田誠. 夕陽限りなく好し. 時事通信社, 1986, 281p.

疋田啓佑. 山室三良先生の人と学問（含 研究業績一覧）. 中国哲学論集. 1997, vol. 23, p.87-97.

柴田篤. 碩水文庫余滴：楠本正継教授と九州大学附属図書館. 中国哲学論集. 2007, vol. 33, p.72-94.

鄒双双.「文化漢奸」と呼ばれた男：万葉集を訳した銭稲孫の生涯. 東方書店, 2014, 280p.

稲森雅子. 一九三〇年代の北京古書肆. 中国文学論集. 2014, vol. 43, p. 245-254.

九州大学文学部編. 九州大学文学部90年の歩み：1924-2014. 九州大学出版会, 2014, 194p.

中里見敬編.『春水』手稿と日中の文学交流：周作人、謝冰心、濱一衛. 花書院, 2019, 255p.

九州大学中国文学会編. 目加田誠「北平日記」：1930年代北京の学術交流. 中国書店, 2019, 250p.

発 行 日　令和元年11月7日

執　　筆　静永　健（九州大学人文科学研究院 教授）

編集発行　九州大学附属図書館

〒819-0395 福岡市西区元岡744

TEL：092-802-2481　FAX：092-802-2479

E-mail：touservice@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL：https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/

印　　刷　城島印刷株式会社

〒810-0012 福岡市中央区白金2-9-6

TEL：092-531-7102　FAX：092-524-4411